

糸満市市民活動支援センター 2016 年度 事業報告書



▲2017年2月5日 糸満まちづくりカフェ 2017

管理・運営
特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく

2017年3月

はじめに

1995年の阪神淡路大震災での市民の活動が契機となり生まれたNPO法が、施行18年を迎え、その後の法改正や新寄付税制が整備されつつあります。一方で、認定NPO法人制度に関する税制優遇措置を削減させるような動きもあり、市民・NPOがより活動しやすい環境整備について市民・議員を超えての議論と行動が求められています。

また、2011年3月11日に発生した東日本大震災から6年が経過しましたが、東北の被災地における復興の道のりについて、引き続き多くの市民やNPOが生活再建・復興に尽力しています。

こうした中、糸満市において2011年10月29日、糸満南小学校跡地にオープンした「糸満市市民活動支援センター」は翌年、糸満市中央市場に拠点を移し、さらに2015年には糸満市役所ふくらしや館に移転し6年度を終えました。

2011年度は最低限の機能整備と周知を行い、2012年度にはテーマ型座談会の開発や「市民提案型まちづくり補助金事業」の事務局を担当、2013年度には、初の「糸満まちづくりカフェ」の実施と「農村地域再生発見事業」の大里地区でのキックオフなどに取り組んできました。

2014年度からは3ヵ年契約を結び、腰を据えてセンター運営をすることとなりました。2014年度、2015年度、2016年度と、地域の課題に向き合い解決と協働のきっかけとなる「テーマ型座談会」の実施、「資金」循環プログラムとしての「市民提案型まちづくり事業補助金～より開かれ、育ち合う～」の運営、「人」の循環のしくみとしての「まちづくりカフェ～異分野・異業種のネットワーク化～」の開催、糸満市地域おこし協力隊と連携した地域自治活動を育てる「農村地域再生発見事業」の取り組みによって、糸満市のテーマである「つながりの豊かなまち」への実現に一步近づけたのではないかと評価しております

この6年を通じて、市民活動支援センターの「周知」と「信頼」が少しずつ広がり、人口6万人の糸満市における市民活動支援の柱となる取り組みが構築されつつあると感じています。

これまで構築してきた市民活動支援の取り組みがますます強化され、より地域に目を向けた地域支援施策の提案や糸満市における中間支援の体制が整うことで、地域への眼差しを持ち、地域の課題解決にチャレンジしていく人が増えていくことを願っております。

糸満市市民活動支援センター
(管理運営/NPO法人まちなか研究所わくわく)
センター長 上原 千加子

目次

はじめに

目次

第1章	2016年度総括・提案と市民活動をとりまく社会環境	1
1-1	2016年度事業の総括	
1-2	糸満市をとりまく地域環境と市民活動環境	
第2章	ハイライト	13
2-1	数字でふりかえる市民活動支援センターの4ヵ年(2013～2016年度)	
2-2	糸満市市民活動支援センターに関する出来事	
2-3	糸満市市民活動支援センター事業トピックス	
(1)	市民提案型まちづくり事業の企画推進	
(2)	市民活動講座の開催	
(2)-1	市民活動講座(補助金申請書書き方)の開催	
(2)-2	市民活動講座(会計)の開催	
(3)	まちづくりカフェの開催	
(4)	テーマ型座談会の開催	
(4)-1	テーマ型座談会(地域の防災を考えるー熊本地震を受けて)の開催	
(4)-2	テーマ型座談会(地域の活動資源をつなぐために)の開催	
(5)	市民活動相談	
(5)-1	市民活動相談	
(5)-2	専門家による相談	
(6)	市民活動の見える化・情報発信	
(6)-1	広報紙「日々是好日」の発行	
(6)-2	ブログで情報発信	
(6)-3	Facebookで情報発信	
(6)-4	市民活動便利帳「いとまんページ」の作成	
(7)	資源循環研究会	
(8)	地域再生発見事業	
2-4	利用実態	
	糸満市市民活動支援センター利用統計	
2-5	フォトギャラリー2016	
第3章	収支概要	37
第4章	運営について	39
4-1	糸満市市民活動支援センター 事業推進体制	
4-2	市合同月例ミーティングおよびスタッフミーティング、スタッフ研修	
	2016年度 糸満市市民活動支援センター事業スケジュール	
	2016年度 糸満市市民活動支援センター利用統計	

添付資料

事業評価シート、メディア掲載記事、これまで6年と年表センター機能、広報紙など

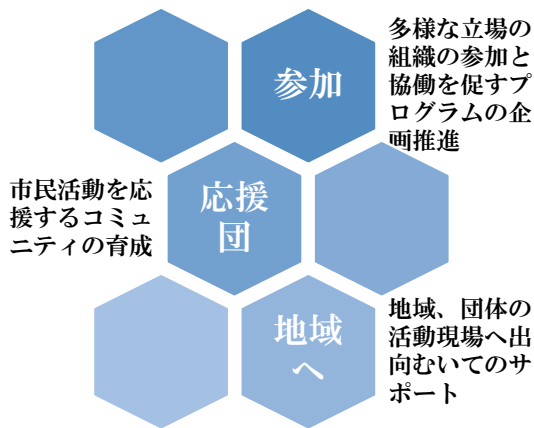
第 1 章 2016 年度総括・提案と 市民活動をとりまく社会環境

■3カ年目標（2014-2016）

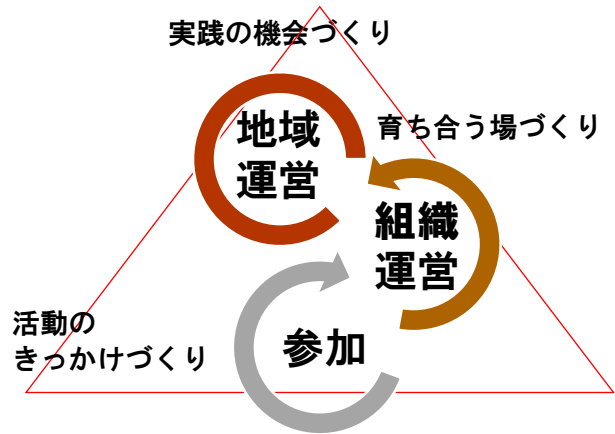
人と活動が 交じり合う「まちづくりカフェ」と
育ち合う「市民提案型まちづくり事業」への
住民参加から協働運営へ
「人」や「資金」の資源が循環するしくみづくり

■センター運営の3つの視点

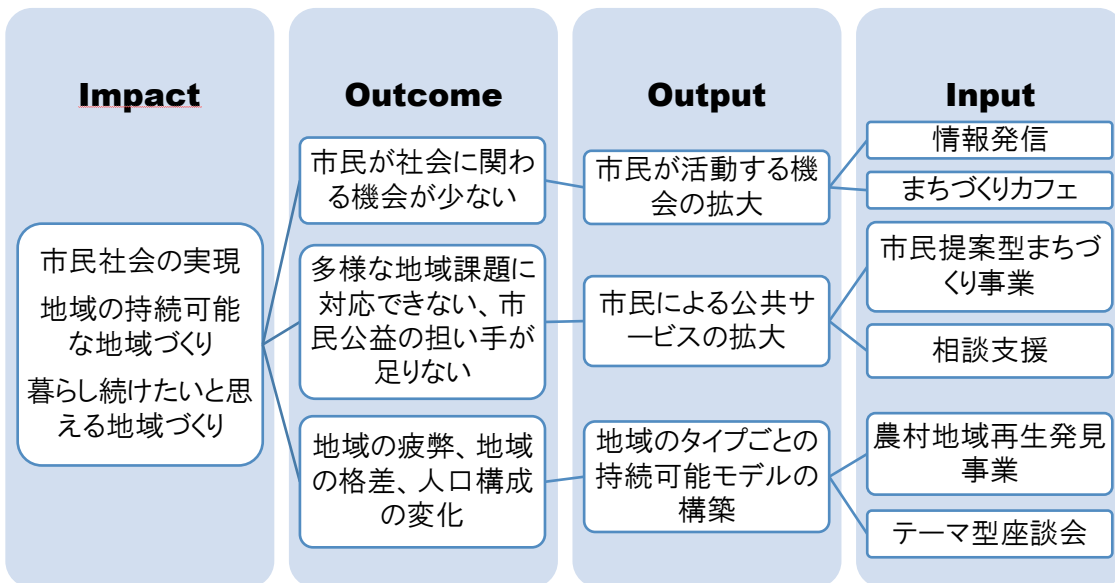
～市民、地域とともに歩む～



■事業を展開する3つのしかけ



■目指す成果指標

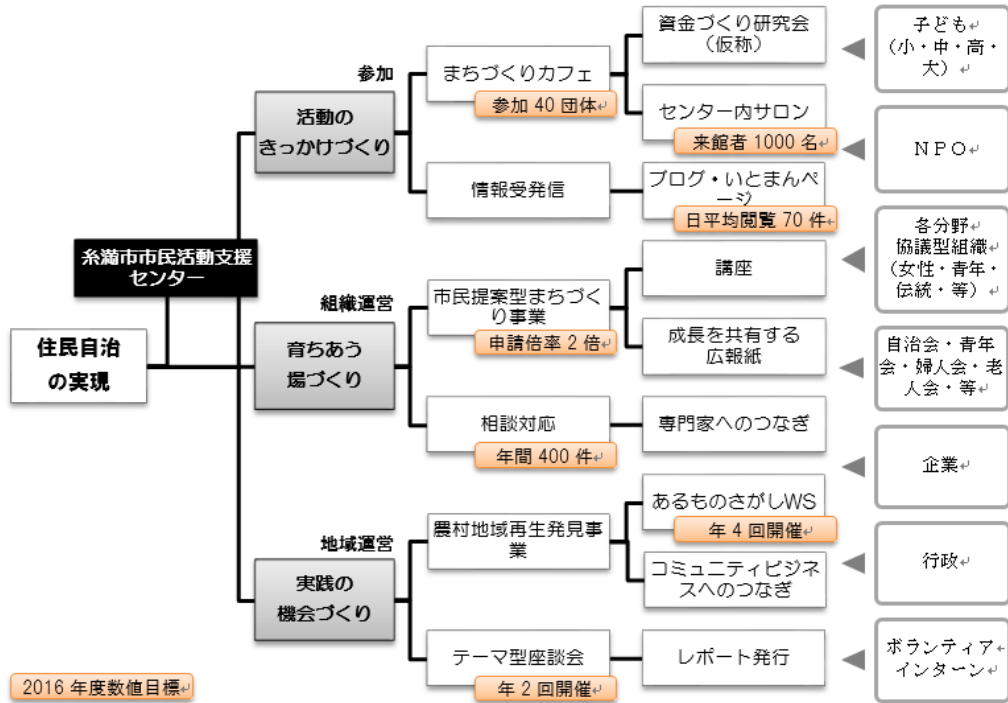


「広げる」 → 「深める」 2016

2014.2.16 糸満まちづくりカフェ初開催
(会場：糸満市社会福祉センター)

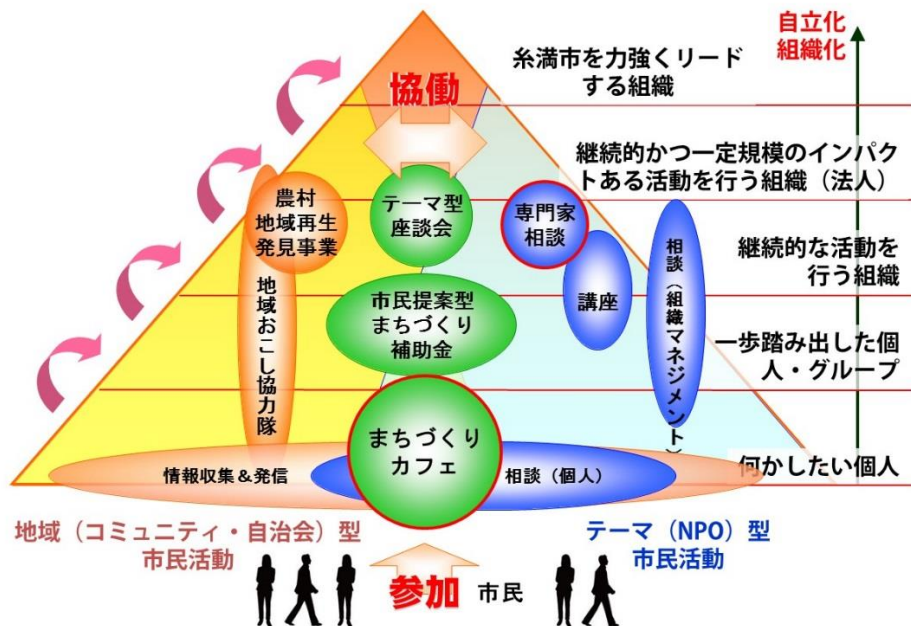
2015.7.16 移転リニューアルオープン
(ふくらしゃ館)

■目標に向けた各事業の位置づけ (2014年度島当初)



■活動の成長段階におけるセンター事業のポジショニング

協働のまちづくりの環境整備 = 市民力・地域力アップ



1-1. 2016年度事業の総括

■地域の課題に向き合い、解決と協働のきっかけとなる「テーマ型座談会」の実施

2014-2016 提案	
ねらい	地域の課題の共有／解決のためのアイデア／異分野・異業種の協働
テーマ	1) 子どもが健やかに育つ環境づくり（青少年健全育成） 2) 地域の受け皿となる地域組織の再構築（地域自治） 3) 災害時避難から避難所生活での困難対応へ（地域防災） 4) 協働のルールづくり（協働） 5) 地域が自立するコミュニティビジネス（地域自立） 6) 市民活動を支える（資金づくり研究会（仮称））

2016年度総括

テーマ3) 災害時避難から避難所生活での困難対応へ（地域防災）
 第9回テーマ型座談会「地域の防災を考えるー熊本地震を受けて」
 2016年4月14日に発災した熊本地震において、実際に熊本へ支援、ボランティアに行った方々からの体験・お話を共有。「糸満市から熊本の被災地に対してできること」というテーマで、意見・アイデアを共有した。

テーマ4) 協働のルールづくり（協働）動機づけ
 第10回テーマ型座談会「地域の活動資源をつなぐために」
 糸満市内の各分野のコーディネーターと各コーディネーターの仕事内容や課題などを共有。それぞれ異なる地域への関わり方からの学びや分野の縦のつながりだけでなく横でつながるための場を増やしていきたい、分野や属性を超えてつながり共通の目的に向かって取り組むためには何らかのルールづくりが必要という声があった

次期への提案

- ・ 一つの地域課題も複数の要因が絡み合い、課題となっている。本質的な課題解決のためには、それぞれの要因に関係する当事者による課題共有と協働が不可欠である。
- ・ 課題解決のためのステイクホルダー（利害関係者）が一つのテーブルを囲み、それぞれの把握している現状と課題を共有する取り組みとして、テーマ型座談会は有効な手法である。
- ・ 次期以降も、糸満市における重要かつ緊急度の高い地域課題をテーマ型座談会として取り上げながら、座談会後のフォローアップも視野に入れた取り組みが求められる。
- ・ テーマの設定については外部から提案してもらえるような仕組みをつくる
- ・ ニーズをひろう一つの方法として、資料準備やレポート報告にこだわらない、サロンのような気軽な話し合いの場を設ける

■ 「資金」循環プログラムとしての「市民提案型まちづくり事業補助金」

～より開かれ、育ち合う～

2014-2016 提案	
ねらい	より開かれたプログラム運営による団体の成長の機会の提供と団体属性と事業内容の多様化
内容	<p>○申請機会の拡大と申請サポート（目標値：申請倍率2倍） 昨年度の交付団体の補助金活用報告会も兼ねた募集説明会の開催（2015-2016年度）／不採択団体の活動PR、フォローアップ／募集期間中の「申請書の書き方・プレゼンテーション」講座、採択後の会計講座の開催などの 公開講座のカリキュラム化</p> <p>○開かれたプログラム運営による学びあいの機会提供 公開プレゼンテーションと外部審査委員の参画</p> <p>○採択団体の次のステージへの機会 応募書類の作成、プレゼンテーション、会計管理、事業管理、報告書の作成などの補助金プログラムを通じた市民活動力の向上につながるセンター事業の展開／「事業の成果」と「団体の成長」という指標づくり／補助金以外の自主財源の開拓につながる支援</p> <p>○「補助」から市民参画型の「マッチングファンド」の検討（資金づくり研究会（仮称）として） 「市民提案型まちづくり事業補助金」プログラムに対する民間寄付と自治体財源からのマッチングによる個別補助プログラムの開発の検討（ふるさと納税制度との連携も含めて）</p>

2016 年度総括

事業年度の上半期中核事業として取り組んだ。事業募集から申請書づくり講座、審査（公開プレゼン・外部審査委員）、実施、報告の年間を通じたプログラムを実施した。当センターが事務局を担って5年になるが、採択事業に取り組む交付団体の取材広報を通して行うハンズオン支援が定着し、相談件数が過去最高となった。

毎年度、団体アンケート回答には年間スケジュールが組めるように時期を始めて欲しいとの声があったので、今年度は4月より募集を行い取り組みを早めた。これによって不採択だった団体を対米請求権事業へつなげられた。

3回目となる公開プレゼンテーションについては、まだまだ周知不足であるが、申請書書き方講座とともに団体の理念や活動について共有出来る貴重な機会となっている。「他団体と合同で事業を行いたい」というアンケート回答があることから、当事業は協働環境づくりにも一役買っているといえる。

コースの金額については、10万円（4団体）・30万円（2団体）として実施したが、申請倍率の偏りや採択される分野の偏りが生じてきており、団体のニーズに合わせて金額やコースの再検討（20万円コース・5団体等）が必要である。また、補助金の出口だけでなく、資金造成のために、ふるさと納税を活用した「松坂市ふるさと応援寄付金」について次のヒアリングを行った。※添付資料参照

- ・企画提案から現在までの経緯
- ・寄付額および寄付者層の推移

- ・ 補助団体採択の方法
- ・ 寄付者への報告の方法
- ・ 運営上の成果と課題

次期への提案

- ・ 採択事業に取り組む団体へのハンズオン支援を通して地域課題の把握と解決に努める。
- ・ 事業スケジュールの早期化。4月より募集開始し不採択となった団体を対米請求権事業など他の財源につなげられるように検討する
- ・ 公開プレゼンテーションの周知徹底を図る。観覧した市民のまちづくり活動への参画や団体同士のコラボレーションを促すための工夫をする
- ・ 申請数の偏りが顕著になってきたことから、コースを再設定する時期に来たと考えられる。10万円コース・30万円コースの2コースから、20万円コース・5団体の1コースへの変更を提案したい。
- ・ 自治会等の地域に根ざした活動など重要度は高いが、他のより緊急度の高い事業と比較した際に採択に至らないというケースが多い。金額だけではなく、活動分野におけるコース分けについても検討する必要性が高まってきている。但し、本補助金プログラムだけでなく、他の市民活動に対する資金提供プログラムとの役割分担も踏まえて検討する必要がある。
- ・ 糸満市におけるふるさと納税の用途の一つである「協働のまちづくりの推進に関する事業」枠の寄付金を補助財源として活用するなどの仕組みづくりの検討が求められる。

■ 「人」の循環のしくみとしての「まちづくりカフェ」
 ～異分野・異業種のネットワーク化～

2014-2016 提案	
ねらい	異分野・異業種の人と活動がまざりあう場として、市内の活動を応援する人が増えていく場としての「人」の循環のしくみづくり
テーマ	<p>○「見る」から「体験」する、「体験」から「応援・支える」へ 地域の課題を知り、活動を体験し、人に触れるようなパネル展示・ブース出展／寄付体験「まちけつと」をきっかけとした活動を応援する人のコミュニティを育む</p> <p>○市役所での開催 市役所1階のロビーと2階ギャラリースペースを活かした一体感のあるプログラム実施／他イベントとの同時開催で相乗効果をねらう</p> <p>○異分野・異業種の団体交流 異分野・異業種の人が「まざりあう場」、「耕される場」としてのまちカフェ</p>



2016 年度総括
<p>今年度は会場を終日買い物客で賑わう道の駅いとまんイベント広場としたことで、CSR（企業の社会的責任）活動に取り組む企業も巻き込みながら、より多くの市民への啓発活動の機会となった。昨年度は「健康福祉まつり」と合同で開催したが、今年度は糸満市（市民活動支援センター）を主催、実行委員会を共催とし、イベント当日、実務を行う団体で組織し企画運営した。</p> <p>これまで資源循環研究会（実行委員会内）において議論してきた「まちけつと（金的資源）」の検証結果として、前回の寄付総額 50,416 円から 78,667 円（まちけつと売上 76,000 円／現金 2,667 円）へ増額し、これを参加団体および市共同募金へ資金循環した。回を重ねるとともに市民に認知され寄付行為につながっていると評価出来る。</p> <p>また、昨年度に引き続き、ボランティアセンター機能を活用した市内ボランティア（人的資源）の仕組み充実を図るため、ボランティア募集したところ 38 名が応募し参加した。</p>



次期への提案
<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な属性、多岐にわたる分野が一堂に会するのは、現時点において全県では当事業だけである。今後も趣旨からぶれずに推進することが重要。 ・ 団体からの共募寄付については事前に確認し、再寄付先はまちカフェ実行委員会含め参加団体へも可能にしていくと資金循環の範囲が広がる ・ 当事業を「協働のまちづくり」のプラットフォームとして、市民および団体が企画から参画出来る仕組みを検討する。 ・ 「まちカフェ」として定着しつつある当催しを継続的、かつ適正な規模で行うために、関係機関との連携をより強化し取り組んでいく。

1-2. 糸満市をとりまく地域状況と市民活動環境

(1) 糸満市内のNPO法人・市民活動団体の概況

把握できる団体として、糸満市に主たる事務所を置くNPO法人と糸満市社会福祉協議会に登録しているボランティア団体、自治会がある。他にも任意団体や一般社団法人等の公益法人もあるが、特に任意団体の正確な数字を把握することは難しい。

① NPO法人数（2017（平成29）年3月17日現在）

糸満市内 **15** 法人（沖縄県内認証法人数 579 法人）

② 糸満市社会福祉協議会に登録されているボランティア団体（2016年度）

登録団体 **28** 団体

③ 糸満市内の自治会

自治会数 **69** 自治会

(2) 市民活動を支える資金プログラム

糸満市内において、分野を問わず市民の活動を資金面でサポートを行うプログラムは以下の2つがある。

① 糸満市市民提案型まちづくり事業補助金

設置・運営 糸満市市民健康部市民生活環境課／糸満市市民活動支援センター
30万円コース 2団体、10万円コース 4団体（2016（平成28）年度）

② 赤い羽根共同募金

設置・運営 沖共募糸満市共同募金委員会

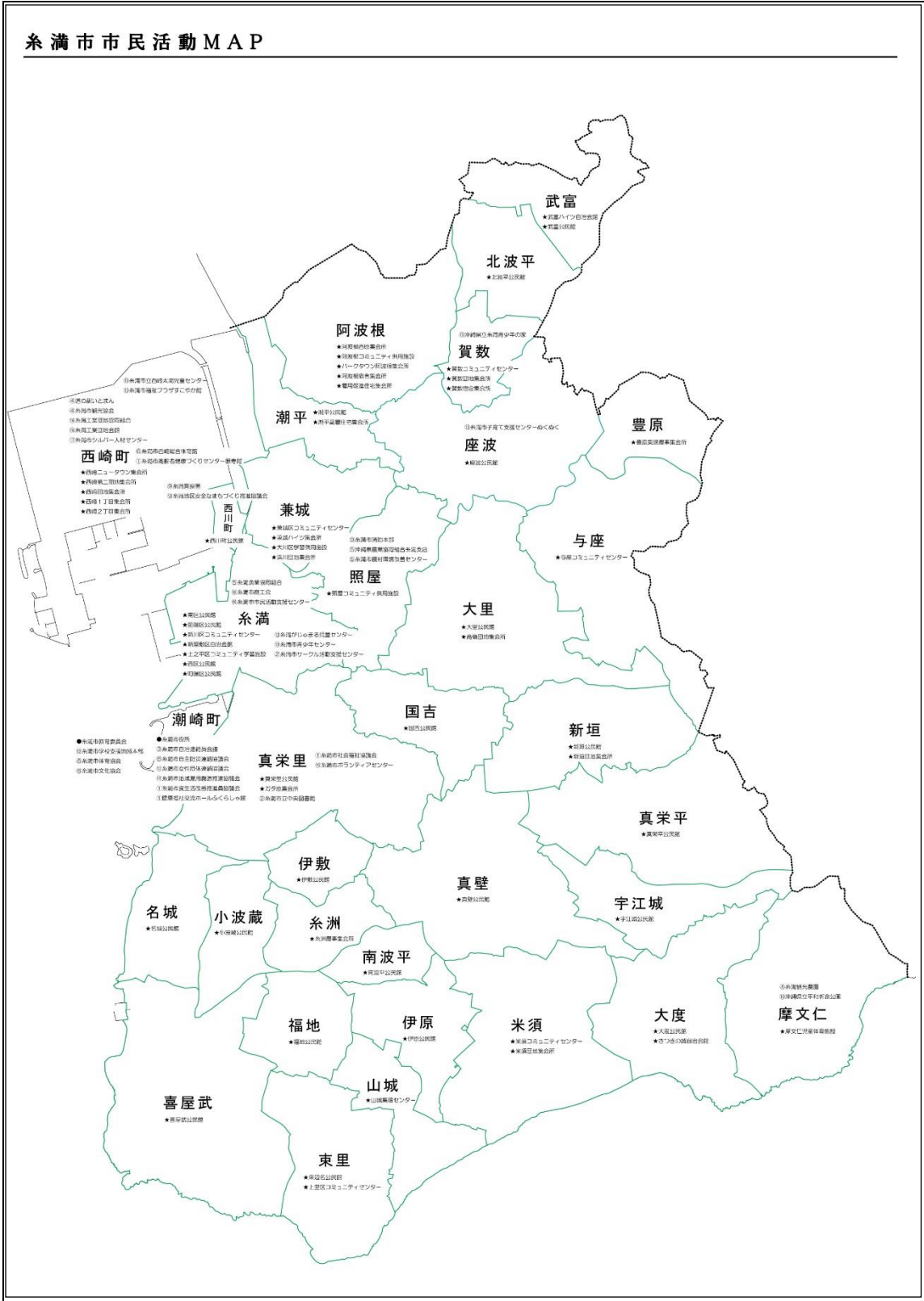
その他、市役所で窓口を設置している資金プログラムとして、以下のものがある。

- 緑の募金／窓口：農政課農政係
- 地域活性化助成事業（公益社団法人 沖縄県対米請求権事業協会）／窓口：政策推進課
- 糸満市地域活性化支援事業補助金／窓口：市民生活環境課

(3) 市民活動を支える中間支援機能を有する機関

糸満市内において、市民活動を支える機能を有する機関は以下の通りである。

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| ① 糸満市市民活動支援センター | ④ 糸満市生涯学習ボランティアバンク |
| ② 糸満市社会福祉協議会
ボランティアセンター | ⑤ 糸満市消防本部 |
| ③ 糸満市生涯学習支援センター | ⑥ 糸満警察署 |
| | ⑦ 糸満市商工会 |



エリア別市民活動団の分布

(4) 人口から読み解く地域の現状

①糸満市内の人口の世帯数

人口：**60,963**人 世帯数：**25,213**世帯

2017年 (平成28年)	人口(単位:人)			世帯数 (単位:世帯)
	総人口	男	女	
2月末	60,963	30,789	30,174	25,213

(引用) 糸満市HP

②糸満市内の外国人

外国人登録人口 **169**人 (2011年度人口比0.3%)

(単位:人)

	総数	アメリカ	中国	フィリピン	ペルー	ブラジル	アルゼンチン	その他	無国籍
2011年度	169	22	54	31	-	5	1	56	-

(参考資料) 平成23年版 統計いとまん (市民課資料)

③人口の推移と高齢者率、等

人口は増加を続けるが、15歳~65歳の生産人口は減少に転じていく見込みである。

65歳以上の高齢者率は増加し続け、2020年には高齢者率22%の見込みであり、

高齢者1人を支える生産人口は**2.7**人(2020年)となる見込み。

糸満市	1990年	2000年	2010年	2020年	2030年
人口計(千人)	50	55	57	59	59
			→ 15%		→ 3%
0~14歳	14	12	11	10	9
			→ ▲22%		→ ▲14%
15~64歳(A) (生産人口)	31	35	37	36	35
			→ 21%		→ ▲7%
65歳~(B) 高齢者率	5 11%	7 14%	9 17%	13 22%	15 26%
			→ 57%		→ 42%
A÷B	5.9人	4.7人	3.9人	2.7人	2.2人
75歳~		3	5	6	9
			→ 44%	→ 25%	→ 43%

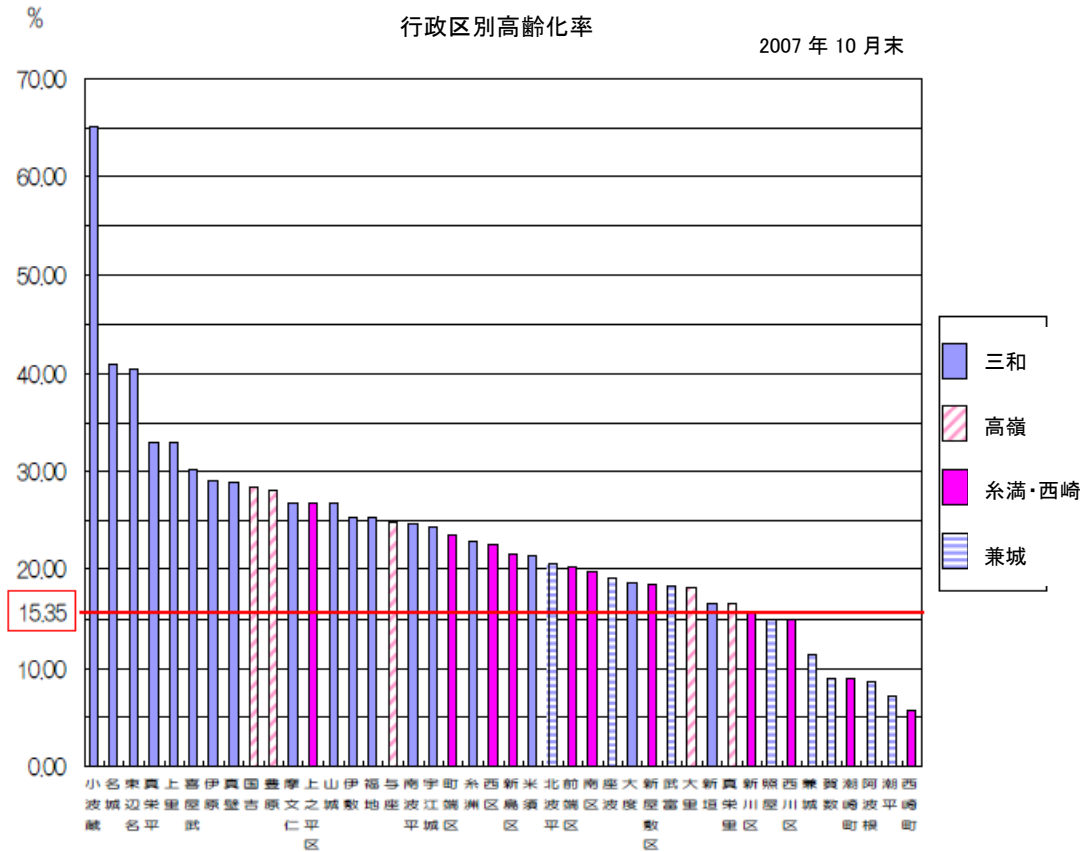
高齢者1人を支える生産人口

(参考資料)

- ・国勢調査：年齢(3区分)、男女別人口及び年齢別割合—都道府県、市町村(昭和55年~平成22年)
- ・日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)/国立社会保障・人口問題研究所
- ・日本の市区町村別将来推計人口(平成15年12月推計)/国立社会保障・人口問題研究所
- ・川北秀人氏(IIHOE代表)研修資料

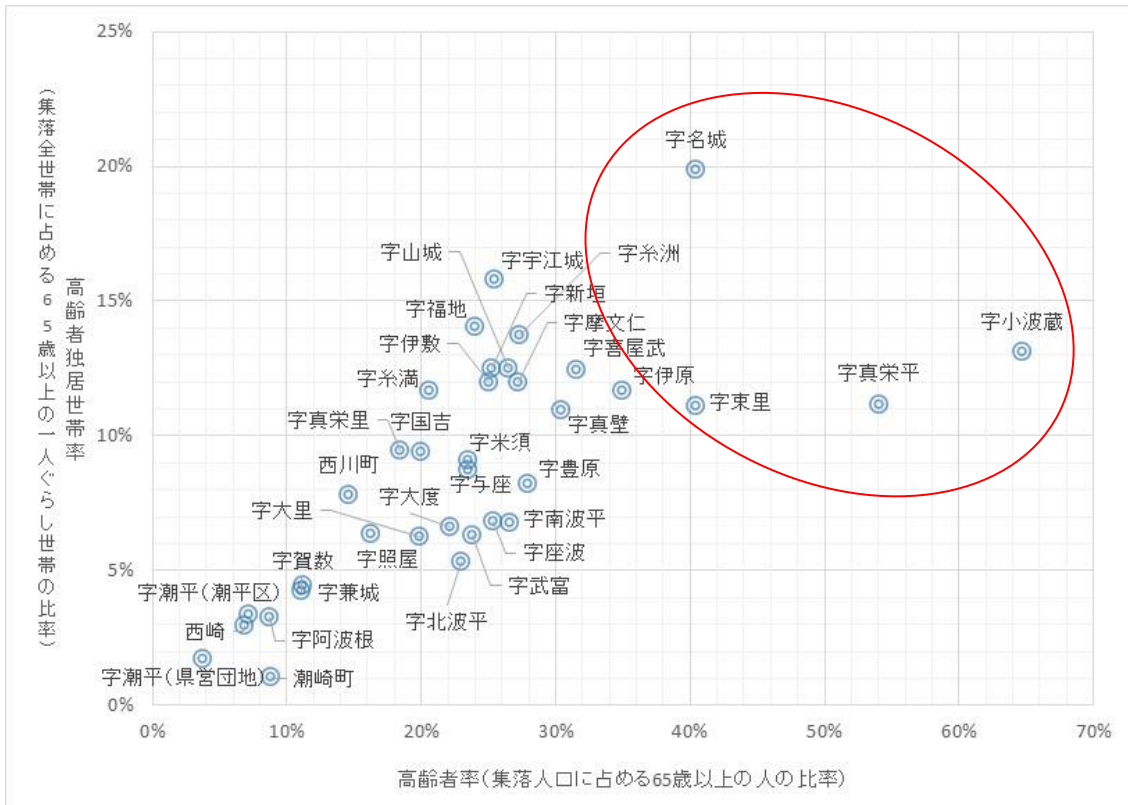
④行政区別にみる地域の現状

行政区 42 のうち **34 行政区** が、市の高齢化率（2007 年（H19 年）：15.35%）を上回っている。



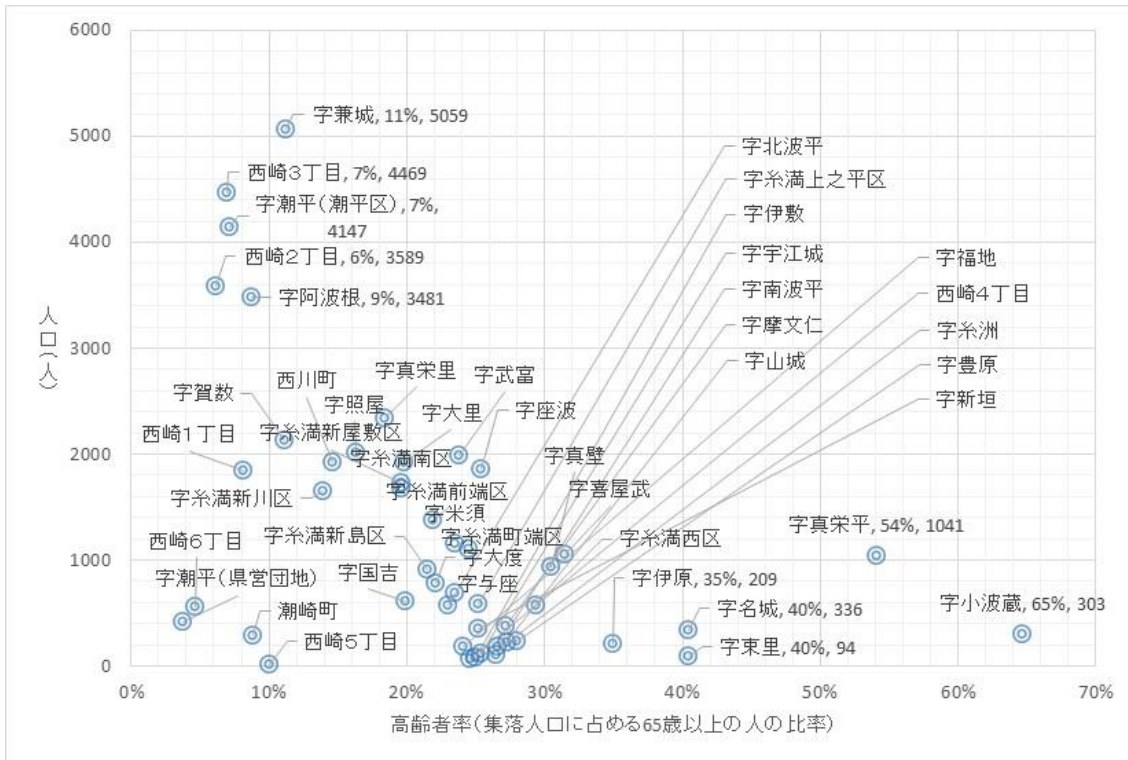
(引用)「糸満市老人福祉計画及び介護保険事業計画」第5期計画より

高齢者率と高齢者独居世帯率における地区分布



※「平成22年国勢調査」データより作成

高齢者率と人口における地区分布



※「平成22年国勢調査」データより作成

第2章 ハイライト

2-1. 数字でふりかえる市民活動支援センターの4ヵ年(2013~2016年度)

① 人数

2,406人 ▶ **3,544人** ▶ **5,098人** ▶ **3,657人**
 2013年度 2014年度 2015年度 2016年度

※イベント・会議に関わった人数含む(2015年度は健康福祉まつり発表約3,000人、実行委員会参加人数もカウント)

② 来館者・件数の推移(日平均)

3.3件 ▶ **3.1件** ▶ **3.9件** ▶ **3.7件**
 2013年度 2014年度 2015年度 2016年度

※業務総件数
 2015年度 4169/16.9(1日当たり)
 2015年度 4565/18.6
 2014年度 4551/17.8
 2013年度 3927/15.4

③ 来館者・件数の総数(年間)

837件 ▶ **790件** ▶ **965件** ▶ **923件**
 2013年度 2014年度 2015年度 2016年度

※2015年度7/16~中央市場からふくらしや館へ移転

④ 相談件数の推移(年間)

377件 ▶ **478件** ▶ **462件** ▶ **408件**
 2013年度 2014年度 2015年度 2016年度

※相談件数には、来所相談、電話相談、出先相談を含む
 ※2015年度は健康福祉まつり参加団体による相談多数

⑤ 市民提案型まちづくり事業の申請倍率(申請数)

2.0倍 ▶ **1.25倍** ▶ **1.75倍** ▶ **0.75倍**
 2013年度 2014年度 2015年度 2016年度
 10万円 (申請8団体/採択4団体) 10万円 (申請5団体/採択4団体) 10万円 (申請7団体/採択4団体) 10万円 (申請3団体/採択4団体)

2.5倍 ▶ **2.0倍** ▶ **4.0倍** ▶ **3.5倍**
 2013年度 2014年度 2015年度 2016年度
 30万円 (申請5団体/採択2団体) 30万円 (申請4団体/採択2団体) 30万円 (申請8団体/採択2団体) 30万円 (申請7団体/採択2団体)

※2012年度より事務局を担う
 ※2013年度は10万円コース3団体→4団体、30万円コース1団体→2団体へ増枠
 ※2016年度は10万円コース定数割れにつき、30万円コース次点団体へ10万円を補助

⑥ 糸満まちづくりカフェ(2013-2016年度)参加団体

36団体 ▶ **41ブース** ▶ **60ブース** ▶ **46ブース**
 2013年度 2014年度 2015年度 2016年度

※2014年度以降は合同で参加した団体あり
 ※2015年度は健康福祉まつりと合同開催

⑦ ブログ記事数の推移(年間)

404件 ▶ **379件** ▶ **378件** ▶ **353件**
 2013年度 2014年度 2015年度 2016年度

※2013年度は前年度に積み残した記事も掲載した
 ※2015年度6月よりFacebookページを開設

⑧ ブログの閲覧数(PV)(日平均)

60PV ▶ **70PV** ▶ **70PV** ▶ **75PV**
 2013年度 2014年度 2015年度 2016年度

※2013年度多い日80-90件、2014年度多い日100-110件、2015年度多い日120-140件、2015年度多い日160-180件

2-2. 糸満市市民活動支援センターに関する出来事(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

期日	事業	主催・所管課	内容
4月5日	自治連絡員会議参加 広報紙発行配布開始	市民生活環境課	2016年度センター事業案内と広報紙(年3号発行)配布 市民提案型まちづくり事業や申請書書き方講座受講案内
4月14日～	市合同月例ミーティング	市民生活環境課・ センター	毎月1回、計12回開催 ほか臨時ミーティング開催
4月12日～	おきなわ市民活動支援会議	県内中間支援組織	情報や意見を交換し連携することで、効果的な市民活動支援 を行うことを目的にした会議で隔月開催
4月19日	市民活動講座「(補助金)申請 書の書き方を学ぶ」	センター	まちなか研究所わくわく宮道喜を講師。市民提案型まちづく り事業募集要項をテキストに市内外より合計24名が参加
4月～	NPO法人報告書提出の呼びかけほ か	沖縄県NPOプラザ	市内NPO法人へ相談案内 ほか沖縄県NPOプラザ主催の講座に共催・協力
4月～	糸満市社会福祉協議会評議員会 出席ほか	糸満市社会福祉協 議会	市内地域福祉の諮問機関に上原が出席 ほか年2回、関係機関連絡会に川寄と上原(あ)が出席
5月14日	市民提案型まちづくり事業審査 会	センター	5月14日審査委員会では審査基準等について事前打合せ、当 日は10団体の公開プレゼンテーションによる審査を行った
6月17日	糸満警察署協議会出席	糸満警察署	市民から意見を聴く諮問機関に上原が委員として出席 全4回開催
6月11日～	研修および視察、ヒアリング	センター	ビジョン大学院講座など8回受講。ほか県NPOプラザ、南城市 ユンタク会視察、松阪市ふるさと納税ヒアリングを行った
6月14日	市民提案型まちづくり事業交付 説明会	市民生活環境課・ センター	10万円コース4団体、30万円コース2団体を対象に開催(当初 予定の市長表敬は大雨警報のため中止)
6月28日～ 12月14日～	潮平中学校・向陽高校・沖縄国 際大学インターンシップ協力	総務課・障がい者IT サポートおきなわ	潮平中学校2名、向陽高校2名が市内まちづくりの取り組みを 取材し発信作業などを体験。沖縄国際大学2名による視察
6月30日	第9回テーマ型座談会	センター	熊本地震を受け沖縄水産高校生がテーマ提供。4名の着席者 から現地の状況を聞き、糸満で何が出来るかを話し合った
7月5日	市民活動講座「会計の基礎を学 ぶ」	センター	緑間優税理士事務所より講師を迎え開催。市内外より個人含 め37名が参加
7月12日	総務省米須地区視察受け入れ	総務省・米須世話 役会	総務省地域自立応援施策を踏まえ農村地域再生発見事業に係 る視察について市民生活環境課職員と上原が参加し対応した
7月15日	字糸満情報交流会出席	糸満自治会長会	市在の各団体が情報交換し字糸満全体の活性化につなげるこ とを目的とした会に上原と地域おこし協力隊が出席
10月17日～	景観審議協議会出席・ワーク ショップへ板書協力	都市計画課	上原が景観審議協議会2回、専門部会4回出席 まちづくりワークショップに川寄が板書協力した
11月26日	観光まちづくり協議会	商工観光課	上原が委嘱を受け2回出席。ほか地域観光部会に地域おこし 協力隊とともに出席
11月18日～	まちづくりカフェ実行委員会ほ か	まちづくりカフェ 実行委員会	実行委員会4回開催。ほかステージMT、ボラセン合同ボラン ティアMT、12/9募集説明会および1/11参加説明会を開催
11月18日	食糧支援事業に係る話し合いに ファシリテーション協力	社会福祉協議会・ NPO愛さんくらぶ	社会福祉協議会食糧支援事業とNPO愛さんくらぶが連携。上 原がファシリテーション協力した
12月7日	補助金担当者連絡会	みらいファンド沖 縄・県内6市	県内6市の補助金担当者による情報交換会に上原が出席
3月1日	地域防災訓練への協力	西崎ニュータウン 自主防災会	60歳以上の自治会員向け油鍋火災消火方法・応急手当・炊き 出し訓練を川寄が取材協力した
2月5日	糸満まちづくりカフェ2017	糸満市・まちカ フェ実行委員会	1/30-2/3市役所市民ホールで市民提案型交付団体によるPR週 間実施。2/5道の駅イベント広場にてまちづくりカフェ開催
2月26日	地域再生発見事業西崎一丁目 ワークショップ	地域おこし協力 隊・センター	講師に傘木氏を迎え、まち歩きのと安心安全マップづくり を行った。地域内外、事務局合わせ26名が参加
3月14日	地域再生発見事業西区・町端区 ワークショップ	地域おこし協力 隊・センター	古民家を再生し食堂として利活用出来るかを考えるワーク ショップを開催。地域内外、事務局合わせ29名が参加
3月28日	第10回テーマ型座談会	センター	市内各分野で取りむコーディネーターが集い「地域の活動 資源をつなぐために」をテーマに話し合った

2-3. 市民活動支援センター 事業トピックス

(1) 糸満市市民提案型まちづくり事業の企画推進

【ねらい】

市民団体及びグループ等が、自主的、主体的に企画実施するまちづくり事業に対し、予算の範囲内で事業の経費の一部を補助することによって、持続的な取り組みを実現していくことを目的とする。

○概要

今年度で7年目となる本事業の事務局として、所管課とともに交付要綱・募集要項の見直しをはじめ、募集・審査・取材広報・報告と一連の業務を行った。

① 募集期間

2016年4月1日(金)～4月30日(土)

② 募集説明会・申請書書き方講座の開催

※申請書書き方講座の詳細は後頁

2016年4月19日(火) 19:00～21:00 糸満市役所ふくらしや館多目的ホール

③ 審査

審査員による事業計画書等の応募書類とプレゼンテーションによる審査を行った。

2016年5月14日(土) 11:00～15:30 糸満市役所ふくらしや館多目的ホール

申請：10万円コース 3団体(交付4団体) 申請倍率0.75倍

30万円コース 7団体(交付2団体) 申請倍率3.50倍

委員：5名

岩田 直子 (沖縄国際大学総合文化学部人間福祉学科教授)

仲間 栄太 (糸満市社会福祉協議会総務係主事(共同募金担当))

玉城 直美 (NPO法人沖縄NGOセンター 副代表理事)

上原 一志 (糸満市商工会事務局長)

上原 秀樹 (糸満市役所市民健康部市民生活環境課課長)

④ 交付団体と事業名

10万円コース

足から健康・アンヨちゃん「自分でできる足もみ健康法」

NPO 愛さんくらぶ「地域に根づいた愛の活動」

糸満帆掛サバニ振興会「海人文化の発掘。祖先は木斛でエークを作った」

イノベーション糸満

「ITの街ITOMANをめざして～キッズいとまんプログラム～」

30万円コース

いとまんシネマクラブ「映画鑑賞と市民文化交流」

糸満市ソフトボール協会「ティーボール祭り及び普及活動」

⑤ 交付説明会

2016年6月14日(火) 10:30～11:00 糸満市役所ふくらしや館多目的ホール

内 容：事業開始から実績報告までの流れ

領収書等の補助金執行管理、活動記録シートの活用について他

(予定していた市長表敬は当日、大雨警報発令と重なり中止)

⑥ 会計講座

※会計講座の詳細は後頁

2016年7月5日(火) 19:00～21:00 糸満市役所ふくらしや館多目的ホール

⑦ センター広報紙「日々是好日」で交付決定事業の紹介

※情報発信の詳細は後頁

Vol. 20 交付団体と事業内容、審査総評・審査項目、市長表敬の様子を掲載

Vol. 21 各事業の活動レポートの掲載

Vol. 22 各事業の活動報告、収支報告の掲載

⑧ 糸満まちづくりカフェ2017にブース参加

※まちづくりカフェの詳細は後頁

日 時：2017年2月5日(日) 10:00～16:00

会 場：道の駅いとまんイベント広場

内 容：事業を提案した理由、経過、現時点での成果、今後の展開



審査会公開プレゼンテーション



交付説明会

～ 申請団体の声 ～

- ・事務局に助けてもらいながら整理が出来、アイデアが生まれてよかった
- ・まちづくりのことを、多くの団体が考え活動していることを知ることが出来た
- ・時間を制限することでスムーズに進行していると思う。心配りが行き届いていた
- ・増額を希望！10万円4団体と20万円3団体はどうだろうか
- ・市民の声をよく聞いて育てていることがよく分かった。毎年なるべくたくさんのアイデアが実現していけるよう各チームの提携、連絡が密になるとよいと思う
- ・センター広報紙を「広報いとまん」と合わせて発行出来ないか？頑張っている人の広報と応援につながると思う

(2)-1 市民活動講座(補助金申請書書き方)の開催

【ねらい】

市民活動を活発にするための手段として補助金制度の活用があることを知り、受けたい補助金事業の要項を読み込み理解し、審査員に企画や活動内容が伝わる申請書の書き方が分かる。

○概要

糸満市の市民活動団体の多くはボランティアベースで、活動資金を自己負担する団体が多く、活動の幅が広がらない要因ともなっている。また市民活動に活用出来る補助金制度を知ってはいても申請書の書き方が分からない、難しい、面倒であるといった声があり、なかなか申請に踏み込めない団体も多い。

市民提案型まちづくり事業募集要項をもとに、補助金の本質を理解することで申請にチャレンジしやすくなるように書き方講座を開催した。

テーマ：申請書の書き方を学ぶ～補助金の活かし方を理解して「思い」を伝えよう～

日時：2016年4月19日(火) 19:00～21:00

会場：糸満市役所ふくらしゃ館多目的ホール

講師：宮道喜一（NPO法人まちなか研究所わくわく事務局長）

参加：24名（非営利法人、任意団体、自治会、企業）



～ 講座受講者の声 ～

- そもそも補助金とは？団体とは？という話も聞けてよかった
- 事業の組み立て方とプレゼン方法を知ることが出来てよかった
- 他の参加者と一緒にプレゼンしたので、自分の足りていない所もよく理解出来た
- 南城市で行っている上がり太陽プラン事業募集要項と同じ内容で参考になった
- 今後もこのような勉強会の情報があると嬉しい

(2)-2 市民活動講座(会計)の開催

【ねらい】

日常の基礎的な会計処理の方法を身に付け、団体の活動がわかる決算書作成の方法や税務処理が出来るよう会計税務の基礎がわかる。

○概要

糸満市の市民活動団体の多くはボランティアを中心とした団体であり、団体の管理運営まで時間や労力を割くことが困難な状況である。また、法人化している団体であっても資格を持たないスタッフが会計業務にあたるのが現状で、決算書作成に戸惑うことが多い。

そこで、日常の基礎的な会計処理の方法を身に付け、演習を通して毎日の会計から決算までの流れを理解するための会計講座を開催した。市民提案型まちづくり事業交付団体には、昨年度に引き続き本講座への参加を義務付けた。

テーマ：会計の基礎を学ぶ～毎日の会計と決算～

日時：糸満市役所ふくらしや館多目的ホール

会場：2016年7月5日(火) 19:00～21:00

講師：緑間優氏（緑間優税理士事務所）

参加：37名（市民提案型まちづくり事業交付団体、非営利法人、任意団体、個人）



～ 講座受講者の声 ～

- ・二度目の参加で、以前の講義内容の復習が出来てよかった
- ・短い時間だが、進行がよく丁寧で分かりやすい説明。練習問題もあるので、出納帳から財務諸表作成の完成まで理解しやすかった
- ・小口担当をしているが、正しいやり方をしていることが確認出来てよかった
- ・(謝金や給与など) 源泉 10.21%、5万円以上(支払調書)はマイナンバーが必要ということが分かってよかった

(3)まちづくりカフェの開催

【ねらい】

各団体の活動を取り上げることで、地域で実践されている協働と市民活動に対する理解と関心を深めるとともに、市民と団体、団体同士の交流や情報交換を促し、地域のつながりづくりに寄与することを目的に実施する。

○概要

糸満市においては第4次総合計画で市民協働の重要性を伝えていることから、その役割や目的の幅広い周知が求められている。様々な分野の団体が実践している活動と協働に対する理解と関心を深めるとともに、市民と団体、または団体同士の交流や情報交換を促し、つながりの豊かなまちづくりに寄与することを目的に実施した。

今年度の会場は、終日買い物客で賑わう道の駅いとまんとし、CSR（企業の社会的責任）活動に取り組む企業も巻き込みながら、より多くの市民に周知され新しい取り組みが生まれることを期待し効果的な啓発活動の場とした。

名 称：糸満まちづくりカフェ 2017

日 時：2017年2月5日(日) 10:00～16:00

※PR週間：1月30日(月)～2月3日(金) ※市民提案型交付団体のみ

場 所：道の駅いとまんイベント広場

主 催：糸満市（糸満市市民活動支援センター）

共 催：糸満まちづくりカフェ 2017 実行委員会

後 援：糸満市教育委員会、糸満市消防本部、糸満市議会、糸満市社会福祉協議会、糸満警察署、糸満市商工会、糸満市観光協会、LineRise、道の駅いとまん施設管理組合、沖縄県水産公社（順不同）



展示ブースの様子



ステージ発表の様子

参加および入場：無料

但し、物品購入や体験に料金がかかるブースあり

また、イベント会場においての寄付は専用チケット「まちけっと」を使用した
寄付総額：78,667円（まちけっと売上76,000円・現金2,667円）

うち当日使用されなかった分と後日団体からの寄付分を合わせた
13,750円を糸満市共同募金委員会へ寄付

※資源循環研究会の詳細は後頁

入 場：約2,000名

参 加：8エリア／46ブース／54団体（順不同）

①元気のつながるまちエリア（保健・医療・福祉・子どもの成長を支える）

足から健康・アンヨちゃん、南部病院、西崎病院、糸満清明病院、ケア・カフェいとまん、沖縄健康づくり協会ダブルピース、糸満市認知症キャラバンメイト、糸満市シルバー人材センター、NPO 愛さんくらぶ、糸満市社会福祉協議会食糧支援事業、糸満市ボランティア団体連絡協議会、糸満市ボランティアセンター、要約筆記サークルいちまんかたつむりの会、ひまわりファクトリーBon・Bon、障がい者支援センターぴゅあ、スペースキッズおきなわ、子育て応援隊NPO いっぱ、

②安全のつながるまちエリア（防災・地域安全）

糸満市自主防災組織連絡協議会、糸満市消防団、南部保護区保護司会糸満支部、糸満警察署

③生命のつながるまちエリア（自然環境をまもる）

イトサン（株）

④喜びのつながるまちエリア（人権・平和・国際協力・男女共同参画をめざす）

糸満市国際交流女性会

⑤人や文化のつながるまちエリア（教育・芸術・文化・スポーツ・科学技術振興）

潮平小学校 PTA、ジョン万次郎上陸之地記念碑建立期成会、西崎中学校吹奏楽部+糸満中学校吹奏楽部×高嶺中学校ボイスパーカッション（ステージのみ）、いとまん森の響き混声合唱団、糸満旗頭振興会、糸満帆掛サバニ振興会、すみれ短歌会、いとまんシネマクラブ、レイ ロケラニ フラスタジオ、パフォーマンス・サークルきらきら、古武道太鼓集団風之舞、リバース ザ ワールド×デイサービスでいご、NSSB、LineRise×おはなしの国マイカニヤ（進行&司会）、糸満市ソフトボール協会

⑥暮らしのつながるまちエリア（まちの基盤・情報化社会の発展）

糸満市市民課、イノベーション糸満、琉球新報糸満販売店会

⑦働きのつながるまちエリア（観光・経済・職業・雇用促進）

糸満市観光協会、ファーマーズマーケットいとまん うまんちゅ市場

⑧信頼のつながるまちエリア（まちづくり・NPOをささえる）

自治会×糸満市地域おこし協力隊、真栄里チャレンジ会×SMBC コンシューマー
ファイナンス(株) (消費者をささえる)、豊原自治会×金城正光民謡研究所
糸満市市民活動支援センター、有刺鉄線(エンディングステージ)

ボランティア：38名

アムズガーデン糸満、向陽高校 JRC、向陽高校 (個人 V)、児童デイサービスコ
ロニーてるや、三和中学校ボランティア部、メディコス・インターナショナル、
糸満市社会福祉協議会職員、上原さん・玉城さん・安藤さん (個人ボランティア)



募集説明会



実行委員会

～ 来場者の声 ～

- いろいろな団体の皆さんがイベントを盛り上げていてすごいと思った
- 寄付はまちのために役立っているからよい。一枚から買えたらもっと手軽
- 子どもや若い方向けのブースが多い気がした。高齢者が楽しめる内容も必要
- ブースがーヶ所に集約され、前年度に比べ活気があった

～ 参加団体の声 ～

- イベントを知らなくても道の駅に来た人が来場した。年齢層も幅広くよかった
- 電源コードは通行人が転びそうで危なかったので次回は工夫が必要だと感じた
- 展示のみ、ワークショップ、販売、測定等、内容によってブース区分した方が落ち着いて見れるかも。特に展示は区別した方がよいと思う

～ ボランティアの声 ～

- 人のつながりがよく見えた
- 糸満市の魅力を発見出来た。初めての接客業で様々な人と交流出来た
- 雰囲気良くて楽しかった。会場案内などボランティアはよくやっていたと思う
- いろんな来場者がいるので安全対策が必要

(4)-1 テーマ型座談会(地域の防災を考えるー熊本地震を受けて)の開催

【ねらい】

熊本地震における被災地の現状を知り、被災地に対して糸満市から出来ること、糸満市で出来ることを考え、今後の市内防災やそれぞれの団体活動に活かしてもらう。

○概要

2016年4月14日以降、熊本地域を震央とする熊本地震が発災した。被災地への支援や市内防災への関心が高まる中、市内高校生からテーマ提供があった。市防災係や社会福祉協議会、個人ボランティアで支援活動に行った方々が着席し情報提供して頂きながら、参加者全員で糸満市からできること、糸満市でできることについてディスカッションした。

テーマ：地域の防災を考えるー熊本地震を受けて

日時：2016年6月30日(木) 18:00～20:00

会場：糸満市役所ふくらしゃ館多目的ホール

テーマ提供者：名幸賢人氏（沖縄水産高校総合学科福祉サービス系列3年生）

情報提供者：大生義国氏（個人ボランティア：オジサンクラブ）、新垣元氏（個人ボランティア：新川区区長）、島袋雄文氏（糸満市社会福祉協議会事務局次長）、上原倫人氏（糸満市市民生活環境課防災係）

進行：宮道 喜一（まちなか研究所わくわく事務局長）板書記録：市民活動支援センター

参加者：25名（非営利法人・任意団体・自治会・行政・企業）



～ 参加者の声 ～

- ・高校生からの呼びかけで開催されたことが素晴らしい
- ・現地に実際に行かれた方からの情報や糸満で支援のために動いている事例を聞くことができ、改めて自分にできる事を考え直すきっかけになった
- ・専門的に情報を収集している団体と連携しながら必要な支援をして続けていきたい
- ・(テーマによっては)自治会割り当てで参加してもらうような努力が必要だと思う

(4)-2 テーマ型座談会(地域の活動資源をつなぐために)の開催

【ねらい】

糸満市内の各分野で取り組んでいるコーディネーターや関係者が一堂に会し、それぞれが取り組んでいる内容と現時点での成果と課題を共有する

各事業に共通する困りごとや要望を取り上げ深めることによって、市内に必要な仕組みやルール等について、ともに考える機会にする

○概要

子ども支援、学校支援、地域福祉、地域包括、生涯学習、観光と、市内には各分野におけるコーディネートの手が多くいるが、互いの取り組みが見えないのが課題である。

辞書によると、コーディネートとは「物事を調整すること」「間に立ってまとめること」「資源をうまく組み合わせて全体の調和をはかること」とある。それぞれの役割を十分に果たすために、互いを知り、各分野において把握している活動資源を共有する機会とした。

テーマ：地域の活動資源をつなぐために

日時：2017年3月28日(火) 13:30～15:00

会場：糸満市役所ふくらしや館多目的ホール

着席者：大城ゆかり氏（糸満市社会福祉協議会地域福祉コーディネーター）石丸乃り子氏（糸満市教育委員会学校支援本部コーディネーター）上原美奈子氏（糸満市介護長寿課地域包括支援係）岸本尚恵氏（糸満市児童家庭課子ども支援サポーター）小阪亘氏（まちなか研究所わくわく）

進行・記録：糸満市市民活動支援センター



～ 参加者の声 ～

- ・各担当者が一堂に集い、場を共有することの意義を改めて感じた
- ・コーディネーターは当事者の代弁者でもある。施策上の役割にとらわれず、当事者の立場になって必要なつなぎ先を見つけることが重要だと感じた

(5)-1 市民活動相談

【ねらい】

市民活動団体や市民活動に興味を持つ個人が、活動をする上での困りごとや疑問を気軽に相談解決出来るような環境をつくる。

○概 要

年度を重ねるごとにセンターの認知度が上がり、分野も多岐にわたって専門的知識が必要な内容も多くなった。困りごとをセンターで完結させるのではなく、この機会を活かして関連機関や各分野におけるコーディネーターとの相互連携に努めてきた。

件数で見ると、今年度は当センターが事務局を担って5年になる市民提案型まちづくり事業に採択された交付団体の取材広報を通して行うハンズオン支援が定着し、過去最高となった。

- ・ 対応数：延べ 408 件
- ・ 内 容：市民提案型まちづくり事業補助金 125 件、
広報 35 件、団体・スペース・イベント
情報コーディネート 85 件、
組織運営(会議運営・会計事務含む)7 件、
助成金情報 11 件、事業イベント運営 82 件、
NPO 等法人設立 15 件、
その他 48 件
- ・ 日 時：原則として事前予約の上、実施



市民提案型事業交付団体つなぎ

考察1) 市民提案型まちづくり事業関連

申請書類の整え方やプレゼンテーションの方法、交付団体の概算請求、報告書作成など、各団体より多数の継続的な相談が持ち込まれ対応した。これらを通して地域全体が抱える課題を把握する機会になり、団体に対するハンズオン支援も定着してきた。

考察2) 相談対応から別の事業へと発展

高校教諭からの相談を専門分野とする団体へつないだ。授業という形で応えたところ、その団体にとっても今後の事業化を検討する機会になった。

考察3) 相談から協働へ

センターが認知されるにつれて専門分野や市民活動以外の相談も増え、内容によっては対応可能な然るべき機関につなぐなど、相互連携し課題の解決に努めた。さらに対応の精度を上げるために、情報を整理し共有する仕組みが必要である。

(5)-2 専門家による相談

【ねらい】

各団体の困りごとに、個別対応が可能な専門家による相談ニーズの把握と専門家とのネットワークをつくる。

○概要

NPO の会計・税務・労務について対応可能な専門家は市内にまだ見当たらないが、福祉系の年間事業規模 3000 万円を越す団体については、既に税理士等の専門家と顧問契約を結べており、直接相談できる先を確保出来ている。

しかし、年間事業規模 300 万円～1000 万円程度にある団体は、会計・税務について個別相談する先を持たず困難を抱えている状況である。これらを踏まえ消費税課税団体でかつ契約税理士を持たない団体中心に声をかけ、当初、会計講座終了後に相談会を予定した。

【相談会】

会計講座に合わせて、市内 NPO 法人または法人化を目指す団体に対し税理士による相談会のニーズを探っているが、同時期の市内需要はなかったため開催しなかった。

【個別対応】

福祉分野 NPO 法人より「活動計算書」への移行に当たっての相談を、NPO 会計税務専門家ネットワークメンバーである大城逸子氏へつないだ。

考察 1) 事務の領域と団体の悩み

会計は日常ルールの設定や NPO 法人会計基準等について、税務は消費税課税団体の境界対や消費税増税対応、法務は変更登記等の悩みがある。他にも指定管理受託に伴い事務上、乱が生じる場合もある。労務については今のところ差し迫った悩みは見えない。

考察 2) アプローチ方針

センター窓口では、いとまんページやブログ Q&A での情報提供を行い、必要に応じて相応しい門家の紹介等を行う。要望の多い会計については市民提案型まちづくり事業のスタート講座として実施、さらには NPO プラザ主催の講座等につなげる。

考察 3) 専門家による個別相談のこれから

NPO 法人向けの個別相談ニーズは見えにくい状態だが、有料でも相談会を希望する声もあり、引き続き料金や時期、募集の方法を検討していく。他のアプローチとして、企業の経理担当者やデザイナーなどの専門知識を団体運営に活かす方法も検討したい。

(6)市民活動の見える化・情報発信

【ねらい】

糸満市内で活動する団体や市民活動に関する情報をわかりやすい形で提供し、いつでも市民が活動へ参加したり、地域の課題解決に取り組めるように市民活動の見える化に努める。

(6)-1 広報紙「日々是好日」の発行

○概要

年に3回、糸満市内の市民活動状況をはじめ、2016年度糸満市市民提案型まちづくり事業補助金交付団体の取り組み、年度最終号ではまちづくりカフェ全参加団体を紹介した。

発行：Vol.20（6月発行）

Vol.21（10月発行）

Vol.22（3月発行）

配布：各号初回600部

□Vol.20 2016年度糸満市市民提案型まちづくり事業補助金

- 1ページ 糸満のまちをよりよくするアイデア「いいね！」
- 2・3ページ 2016年度糸満市市民提案型まちづくり補助金交付団体決まる！
- 4ページ 団体紹介：リバーズ・ザ・ワールド
2016年度まちセン*スケジュール、市民活動の情報発信にご活用ください！

□Vol.21 地域の「未来」を思い描く～地域再生発見事業～

- 1ページ
 - ・地元を元気にする「地元学」とは
 - ・まずは地域に出て「あるもの」を探してみよう！
 - ・地元学では、住んでいる人を「土の人」外部の人を「風の人」と呼びます。
 - ・新地域おこし協力隊 藤枝真美
- 2・3ページ 2016年度糸満市市民提案型まちづくり事業補助金交付団体レポート！
- 4ページ 団体紹介：北波平自治会
2016年度まちセン*スケジュール、市民活動の情報発信にご活用ください！

□Vol.22 糸満市をよりよくするための取り組みの見える化

- 1ページ 見える化の仕組み、まちセンブログ、いとまんページについて
- 2・3ページ 2016年度糸満市市民提案型まちづくり事業補助金交付団体報告

4～7 ページ 糸満まちづくりカフェ 2017

8 ページ 2016年度センター事業報告、まちづくり活動の情報発信にご活用ください！

(6)-2 ブログで情報発信

○概要

糸満市内で活動する団体の多くは独自で情報発信するツールを持たず、またその活動を紹介する媒体も少なく情報が得にくい。また市民活動に取り組む際、地域に特化した情報が整理されておらず、必要な情報を入手するのが困難である。記事を掲載する際はブログの検索機能を活用し、情報を引き出しやすいよう工夫した。

また、7月より地域再生発見事業専用ブログを立ち上げ、地域おこし協力隊による自治会情報発信を行った。

※地域再生発見事業ブログの詳細は後頁

URL : itomansaposen.ti-da.net

更新日 : 毎開館日

記事数 : 年間 353 件

閲覧数 : 日平均約 75 件 (多い時で 160~180 件)

インフォメーション : 利用案内、まちセンからお知らせとお願い、2016 事業、2016 スケジュール、関係機関リンク、市内団体リンク

記事カテゴリ :

まちセン概要、まちセン事業報告書、市民活動相談、市民活動講座、テーマ型座談会、市民提案まちづくり事業、地域再生発見事業、糸満まちづくりカフェ、いとまんページ、広報紙「日々是好日」、資源循環研究会、2012 センター事業、2011 センター事業、市民活動 20 の分野、条例で定める活動、市民活動 Q&A、市民活動イベント情報、市民活動スペース情報、補助金・助成金情報、糸満市ふくらしや館、糸満市中央市場周辺、視察・研修、その他



(6)-3 Facebook で情報発信

○概要

ブログだけでは網羅しきれない個人等に向け情報を発信するとともに、Facebook を利用する団体の情報を収集した。

URL : <https://www.facebook.com/itomansaposen/>

ページいいね！数：181 いいね！

インフォメーション：まちセンからのお知らせとお願い、
関係機関リンク、市内団体リンク、
まちセンブログ記事へのリンクなど



(6)-4 市民活動便利帳「いとまんページ」の作成

【ねらい】

市内の市民活動に関する基本的な情報を取りまとめて便利帳を作成し関係機関が活用することによって、市民の問い合わせに対しどの窓口でもその場で等しく情報が得られる環境を目指す。

○概要

2012年度の第1回テーマ型座談会において、市内の市民活動支援機関でさえ、それぞれが把握している情報を共有出来ていないことが明確になった。便利帳の作成と活用を通し市内関係機関とのネットワークを築き、ともに糸満市内の市民活動の「見える化」に取り組む。情報収集を通して団体の活動内容が見え、当センターのことを知ってもらおう機会となっている。

○進捗状況（2017年3月時点）

- ・いとまんページ団体登録のための記入シートを送信、送付
- ・いとまんページサイト公開（無料ホームページ作成サイト Wix を使用）



(7)資源循環研究会

【ねらい】

2011 年度に資源循環について議論し、提案した内容を踏まえた実験的実践を行ない、持続的なしくみづくりへの方向性を示す。

○概要

2011 年度に①小さいチャレンジを促し耕し支える仕組みづくり②地域で資源をまわし、つながりをつくる③既存イベントや仕組みを活用し、異分野・異業種コラボレーションを生み出すことを提示した。2013-2015 年度にはまちづくりカフェにおいて、①まちけつとによる寄付体験②フードドライブ③ノウハウや情報の循環への取り組みを検証し、イベント自体が糸満市の資源循環のしくみとなることを目指した。

今年度のまちづくりカフェにおいては、昨年度から寄付に特化したまちけつと（金的資源）の検証を、また、ボランティアセンター機能を活用した市内ボランティア（人的資源）の仕組み充実を図った。テーマ型座談会においては、各分野で取り組むコーディネーターが集い、各分野において把握している活動資源を共有する機会とした。

先進事例として、松阪市ふるさと応援寄附金を活用した事業の立ち上げ経緯や運営上の成果と課題についてヒアリングを行った。

※まちづくりカフェおよびテーマ型座談会の詳細は先頁

提案1) まちカフェ自体を多様な資源循環の場へ

まちづくりカフェは、年1回の「資金」「人材」「情報」「活動」等の資源循環の場として定着させていくことを目指す。市民の「共感」を軸として、「体験」「選択」「双方向」をキーワードに展開していく。

提案2) ふるさと納税を市民提案型まちづくり事業補助金へ活用

糸満市におけるふるさと納税の用途の一つである「協働のまちづくりの推進に関する事業」枠の寄付金を、補助財源として活用するなどの仕組みづくりについて検討する

(参考) 三重県松坂市ふるさと納税

ふるさと納税（応援寄附金）の活用事業（松坂市 HP より）

ふるさと「市民力」サポート制度（住民協議会活動支援）

～みんなでつくる「わたしたちの魅力あるまちづくり」の応援～

地域の個性が輝く新しいまちづくりを応援してください！！

・ 「新しいまちづくり」を行う組織

➤ 松阪市では地域のことを一番よく知っている地域のみなさまが主人公の「新しい

まちづくり」を担う組織として全市域に「住民協議会」を設立し、市民と行政が連携したまちづくりの構築をめざしています。

- ・ 「ふるさと」を応援してください
 - ご寄附に当たり、生まれ育った「ふるさと」、思い入れのある「地域」など支援したい地域（住民協議会）を希望していただくことで、ご希望のあった住民協議会では、地域自らが寄附金の活用方法を決定します。地域の個性が輝く新しいまちづくりのため、みなさまのあたたかいご支援をお願いします。
- ・ まちづくり活動をバックアップ
 - 住民主体の地域づくりの実現に向け、既存の住民協議会活動交付金に加え、みなさまからいただいたご寄附を交付金として交付することにより、地域住民によるまちづくり活動を支援します。

提案3) 開かれた「市民提案型まちづくり事業補助金」プログラム

市民と団体が学びあい育ちあうメニューとして「申請書の書き方講座」「外部審査委員の導入」「公開プレゼンテーション」「年間を通じた情報発信支援」「不採択団体のフォローアップ」「まちづくりカフェでの中間報告」「テーマ型座談会での事業報告」を展開していく。

(8)地域再生発見事業**【ねらい】**

地域コミュニティの再生を目指すとともに、集落の自立的発展を促し、地域のつながりを深めながら、地域伝統に根付く住み良い元気なまちづくりを図る。

前例である米須地区と新しい地区を基盤とし、自立的なむらづくり活動のモデルとして他の集落へ波及を目指す。

○概要

7月より新地域おこし協力隊が着任。地域再生発見事業ブログを立ち上げ、各自治会行事取材し発信した。市民生活環境課所管の自治連絡員会議にも参加し地域連携を図った。今年度は、NPO 地域づくり工房傘木宏夫氏を招聘し、2回のワークショップを実施した。

①地域再生発見事業ブログ URL: itomanchiiki.ti-da.net/

地域おこし協力隊からのお知らせ、2016 地域再生発見事業、2016 地域再生発見事業スケジュール、自治会の取り組み、夏祭りレポート、伝統行事レポート、その他行事

②西崎一丁目まちな安心（たからもの）マップづくりワークショップ

日時：2月26日（日）10：00～15：30

場所：西崎一丁目集会所・周辺

アドバイザー：傘木宏夫氏

参加：26人（うちスタッフ5人）

アンケートより

- ・子供たちの気づきが素晴らしかった。
- ・地域を大切に思う人がいて嬉しかった。
- ・二丁目や西川など近隣の安全マップも作りたい

**③西区・町端区古民家再生ワークショップ**

日時：3月14日（火）19：00～21：00

場所：町端区公民館

アドバイザー：傘木宏夫氏

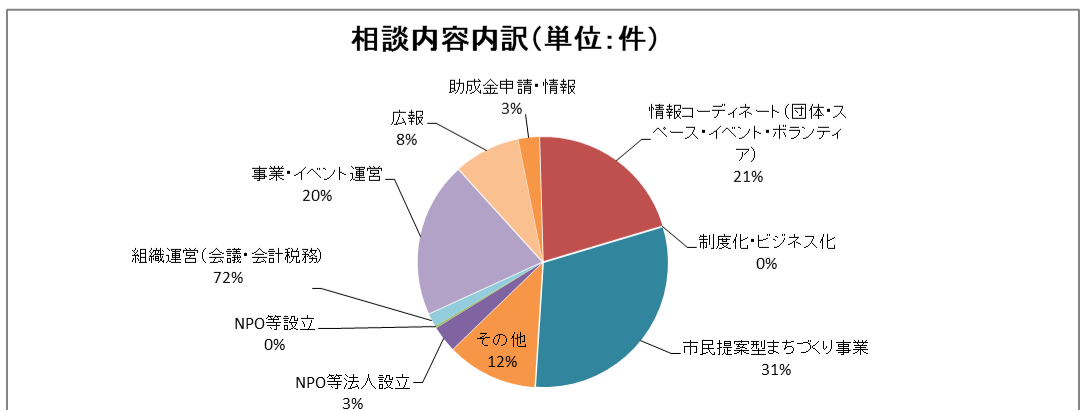
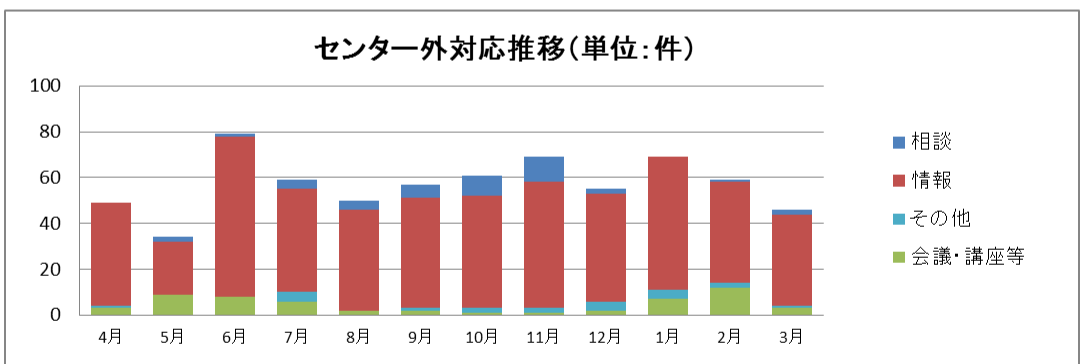
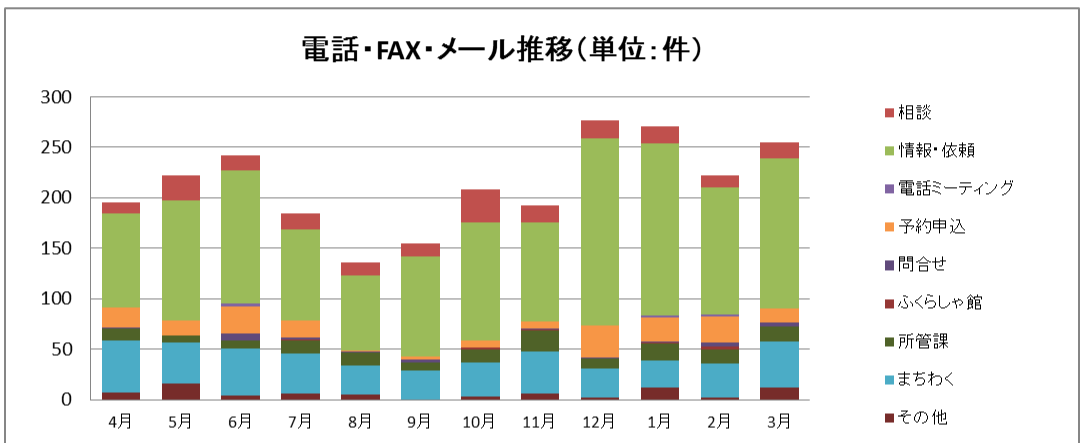
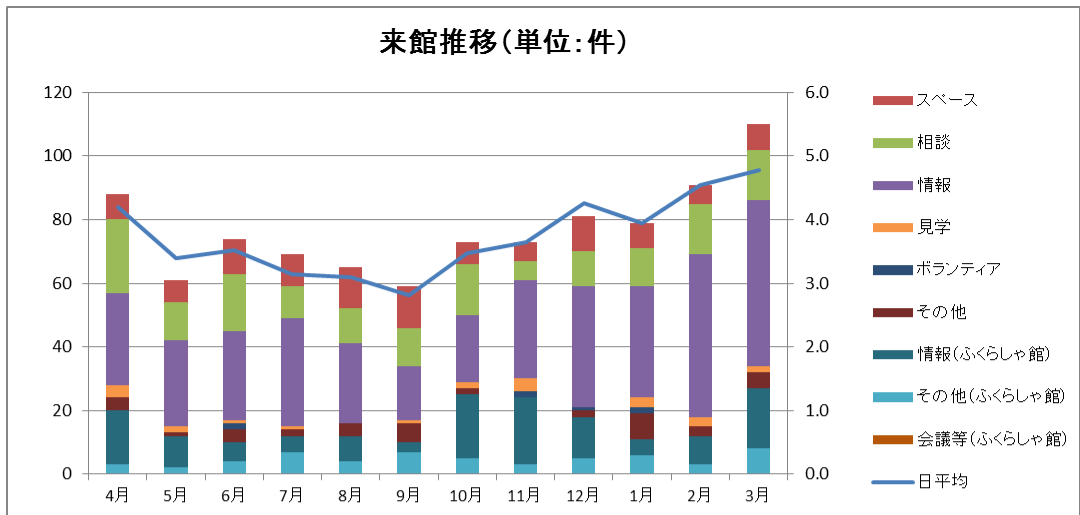
参加：24人（うちスタッフ3人）

アンケートより

- ・古民家再生の体験を聞いて良かった
- ・やはり地域の絆が大切だと思った
- ・空き家有効活用の意見をもっと広く聞き取りたい



2-4. 利用実態



○考 察

昨年度、中央市場から市役所ふくらしや館へ移転したことで、これまで市民活動とは縁のなかった市民が来庁の際に訪れるなど、確実に来所者層は広がっている。例えば、ふくらしや館にて母子検診を受診した市民や保育関係者より、市内で行っている子ども食堂についての問い合わせがあったり、センターの掲示物を閲覧した市民からは活動団体に対し寄付をしたいとの申し出があった。

また、地域活動に取り組みたいと来所した企業やインターンシップで関わった学生が、当センター主催の行事にボランティア参加した。これを機にボランティアセンターへ登録するなど、市内の人的な資源循環の仕組みが構築しつつある。

年度前半は市民提案型まちづくり事業に関する内容が大半を占めた。事務局として5年目を迎えた今年度は、年間スケジュールが組めるように時期を始めて欲しいとの団体の要望に応え、例年より約一か月早い4月1日より募集を開始した。それによって、不採択団体を別の補助金メニューへつなぐことも出来た。今後も団体の声に耳を傾けながら丁寧にブラッシュアップしていく。また、採択事業に取り組む団体の取材広報を通して行うハンズオン支援が定着し、相談件数が過去最高となった。

また、この事業に紐付けて、今年度も申請書書き方講座と会計講座を開催した。どちらも回を重ねるごとに受講者の満足度が高くなっており、市外受講者からは市外にも開かれた有益な講座として評価を得ている。

地域の課題に向き合い、解決と協働のきっかけとなるテーマ型座談会を年に2回実施しているが、初めて市民からの提案を取り上げた。4月に起きた熊本地震を受け、糸満市で何か出来ることはないかとの高校生の声がテーマ設定へとつながった。

年度後半は今回で4度目となる、まちづくりカフェに係る業務が圧倒的に多かった。初会場の道の駅いとまんや駐車場借用に関するやりとりをはじめ、参加団体の出展内容に関する相談や情報収集および発信などに時間を割いた。多様な属性、多岐にわたる分野が一堂に会するのは全県でも糸満市だけと思われる。

昨年度までの3年間、大里地区をモデルとした農村地域再生発見事業は、今年度より新任の地域おこし協力隊を迎え、農村に限定せず市内全域へと事業の対象を広げた。長野県よりNPO地域づくり工房代表の傘木宏夫氏を招聘し、2回のワークショップを実施した。

センター開所より6年。利用者数の増加は落ち着いたものの、今後もニーズは多様化すると考えられる。それに伴い、相談対応が可能なスタッフの採用や育成の必要性は高まる。また、協働を推進するためには地域に出向き、情報を収集し整理することも大切である。

業務のバランスを考え時間の使い方を工夫し対応していくが、併せて人員増についても要望したい。

2-5. フォトギャラリー2016

4月 申請書書き方講座プレゼンテーション体験



5月 所管課との市合同 MT



7月 市民提案型まちづくり事業交付団体集合写真



6月 市民提案型まちづくり事業 審査委員



7月 自治連絡員会議にて新任挨拶



11月 市民提案型交付団体取材



12月 向陽高校職場体験



2月 糸満まちづくりカフェ2017



3月 古民家再生ワークショップ



市民活動支援センター年2回の大掃除



第3章 収支概要

3. 2016年度 糸満市市民活動支援センター収支計算書

(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

	経費区分	経費	内訳
	【経常収入】		
委託料		8,396,000	
	経常収入 計	8,396,000	
	【経常支出】		
人件費	給料	4,805,000	センター長・スタッフ2名
	法定福利費	620,557	社会保険・労働保険料
	人件費 計	5,425,557	
事業費	諸謝料	101,635	市民提案型まちづくり事業審査委員・講師等謝金
	支払手数料	4,500	振込手数料
	福利厚生費	6,048	職員健康診断料
	リース料	195,888	ノートPC×3・デジタルカメラ×1
	新聞図書費	37,040	新聞×1、NPO関連書籍
	通信運搬費	178,613	固定携帯電話料・プロバイダ料、ブログ使用料、郵送料
	備品消耗品費	223,070	事務・拠点整備用品
	印刷製本費	170,640	広報紙×3・座談会レポート、まちカフェちらし
	旅費交通費	37,457	スタッフ交通費、駐車料金
	取材費	4,000	市民活動団体主催行事に係る参加費
	会議費	18,516	市民提案型審査会・講座・座談会など茶菓子代
	事業費 計	977,407	
農村地域再生 発見事業費	諸謝料	105,000	アドバイザー謝金
	通信運搬費	3,484	自治連絡員向け、まちカフェブース出展案内
	備品消耗品費	82,657	ワークショップ消耗品
	旅費交通費	164,880	アドバイザー旅費
	支払手数料	1,080	振込手数料
	事業費 計	357,101	
	事業費 合計	6,760,065	人件費・事業費の合計
管理費		1,014,010	人件費・事業費合計の15%
消費税		621,925	管理費を含めた総事業費の8%
	合計	8,396,000	
	収支差額	0	

第4章 管理・運営

4-1. 事業推進体制

○センター開館について

- －開館時間：9:00～18:00
- －閉館日：日・月曜日・国民の祝日・慰霊の日・12月29日から1月3日

○市民活動支援センター事業部

センターを管理運営するためのスタッフを配置し業務の効率化を図った。

- －常勤：上原千加子、川寄紋
- －非常勤：上原あい子

○ボランティアについて

市内まちづくり活動に関連する新聞の切り抜き作業やセンター行事準備に係る作業を行うなど、センターの運営に関わるボランティアの受け入れを行った。

○インターンシップ・職場体験受け入れについて

まちづくり活動に関する情報収集を行いレポートにまとめるなど、インターンシップとして市内生徒の受け入れを行った。他にも要望のある学生に対しヒアリング対応や授業協力をを行った。

- －西潮平中学校2名（11月10日～13日）
- －向陽高校2名（5/16、7/25、11/26-27、12/26）
- －沖縄国際大学2名

○視察への協力について

総務省地域自立応援施策を踏まえた農村地域再生発見事業に係る視察について、市民生活環境課職員とともに参加し対応した。

- －総務省米須地区視察への協力（7月12日）



○他機関との連携について

糸満市内外の各関係機関の会議や研修等に積極的に参加し、連携強化に努めた。

- －糸満市社会福祉協議会評議員会、関係機関連絡協議会
- －糸満警察署協議会
- －宇糸満情報交流会
- －景観審議協議会出席および専門部会
- －観光まちづくり協議会および地域観光部会
- －おきなわ市民活動支援会議
- －市民活動団体等への補助・助成事業担当者による情報交換会

4-2. 市合同月例ミーティングおよびスタッフミーティング、スタッフ研修

毎月第1火曜日の午後を市合同月例ミーティング、毎週火曜日の午前を定例スタッフミーティングと位置づけ、センター事業に関わる職員が集まり、情報の共有と事業に係る協議および利用者対応について話し合う場を持った。また、内容によっては定例日以外にも個別にミーティングを行い、業務の円滑化を図った。

スタッフ研修については、相談対応中の事例を挙げ予測される内容も含めて、その都度、研修を行い相談対応力の向上に努めた。また、糸満市社会福祉協議会をはじめとしたセンター外での勉強会やまちなか研究所わくわく主催の沖縄地域社会ビジョン大学院2016を受講、松阪市ふるさと納税に係るヒアリングを行うなど、職員のスキルアップを図った。

- －市合同月例ミーティング 原則毎月第1火曜日の午後
- －スタッフミーティング 原則毎週火曜日の午前
- －スタッフ研修（糸満市社会福祉協議会主催夜会福祉制度勉強会、沖縄地域社会ビジョン大学院受講、県NPOプラザ視察、南城市津波古地区ユンタク会視察、松阪市ふるさと納税に係るヒアリング）



市合同月例ミーティング



宇糸満情報交流会で名刺交換



糸満市市民活動支援センター事業

2016 年度事業報告書

2017 年 3 月

発 行：糸満市市民活動支援センター

（管理・運営 特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく）

〒901-0361 糸満市潮崎町一丁目 1 番地 糸満市役所ふくらしや館

Tel & Fax : 098-992-5828

E-mail : itoman.saposen@gmail.com

Blog : <http://itomansaposen.ti-da.net/>